

女性の「ライフスタイル」と学習意識との関係

—特に短期大学卒業生について—

女性 ライフスタイル 学習意識

○堀 良子（帝塚山学院大学）

I 調査の目的と方法

浅田隆夫（目白学園）

1) 目的

急速に進む高齢化社会の中で女性の老後が長くなり、それだけ人生における“余暇時間”が多くなった。この自分の時間をどのように生きるかは人生設計をどうデザインするかということであろう。

本調査は短期大学を卒業した女性が卒業後の自らのライフスタイル（Life Style）を以下L/Sと略記—個人の生き方や暮らし方を意味し、それは今日の社会の生活文化の状況を個人の価値意識によって規定されるもの）をどう位置づけているのか。そのL/Sからみた学習意識を分析し、人生80年時代を活力とゆとりのある生活実現の環境づくりのための資料としたい。

2) 対象と方法

対象—M短期大学卒業生名簿（1万5千名）より1,250人を抽出、回収された集計実数は441人、これをI～VIに区分した。回答者441人の「卒業年度」ごとの人数の割合は表1に示すように、I期・14%、II期・10%、III期・17%、IV期・28%、V期・24%、VI期・7%（小数点は第1位以下四捨五入）である。（表1）

方法—郵送による質問紙調査、調査実施時期は平成5年2月～3月。

有効回収率、34.8%。

3) 結果と考察

本調査では、L/S5つのパターンで示し自己評価してもらった。以下5つのL/Sのパターンを示す。

第1のパターンは「自分の好きな人生を楽しく生きてゆくほうである」というL/Sで、これを「享楽型」とする。第2は「伝統を大切にし、自分のことよりも家族やつき合いを大切にするほうである」というL/Sでこれを「伝統型」とする。第3は「あまり伝統や習慣にこだわらず自分の欲望に忠実に生きるほうである」というL/Sでこれを「自律型」とする。第4は「目標を立てそれに向かって一生懸命努力するほうである」というL/Sで「努力型」とする。第5は家族のため社会のためには自分を犠牲にしても尽くすほうである」というL/Sで「他人（社会）型」とする。全体的なL/Sの傾向としては、自分は「享楽型」とする人が38.9%と最も多く、次に「努力型」が23.9%、「伝統型」が19.7%、「自律型」が10.0%、「他人（社会）型」が7.5%の順になっている。

次にこれらのL/Sを年代別にみると、卒業時期によって差がみられる。I期（1965～'70年卒）の年代は「享楽型」と「伝統型」がそれぞれ25.4%、「努力型」が22.0%で、4人に1人が選んでいる。「他人（社会）型」は18.7%とこの「他人（社会）型」でしめる割合はI期の年代が最も多い。II期（1971～'75年卒）の年代は「享楽型」と「伝統型」のしめる割合がI期よりやや増加し「他人（社会）型」が減っている。III期（1976～'80年

卒)では「享楽型」とするものは2人に1人となっており「努力型」、「自律型」とする評価は他の年代に比べて最も少ない。Ⅳ期(1981~'85年卒)、Ⅴ期(1988~'90年卒)では「享楽型」とする割合はⅢ期に比べて少ないが、「努力型」であるとする人が増加している。卒業年度のおそいⅥ期(1991~'92年度)では「享楽型」と評価する人が53.3%ともっとも多く、「努力型」とする人が3人に1人となっている。だが、「他人(社会)型」とする人はいない。

回答者の年代別にみられるL/Sの傾向からみて卒業年度が下がるにしたがって各自のL/Sは「伝統型」や「他人(社会)型」は減少し「享楽型」、「努力型」といった自己実現を重視する生き方が選択される傾向がみられた。(表2)

学習の現状とライフスタイルの関係

短期大学卒業後の学習状況について、詳しくたずねた結果の中から、5つのL/Sと有意な差がみられた項目を取りあげ分析を行う。

1 学習情報の入手の方法(表3)

学習に関する情報をどのようにして入手しているか、その方法を14項目を示し、主なものを一つ選択してもらった。その結果は表3で示すように極めて多様であった。

入手の方法として1位に「知人から」と回答したのは「努力型」以外の4つのL/Sである。つまり「享楽型」(22.9%)、「伝統型」(27.8%)、「自律型」(30.3%)、「他人(社会)型」(30.8%)、で人から人への口込みの情報が重視されている。次いで「新聞」、「雑誌」、「本」からの入手が多く「享楽型」は(35.7%)、「伝統型」(47.2%)、「自律型」(24.3%)、「他人(社会)型」(27.0%)となっており、さらに「タウン誌」、「広報誌」を加えると活字メディアからの情報収集の割合が高くなっている。次に、「テレビ」をあげたのは「享楽型」(10.7%)、「自律型」(12.1%)、「他人(社会)型」(23.1%)特に「他人(社会)型」はその割合が高いが、映像メディアからの情報を入手する機会は活字メディアに比べると少ない傾向が示された。一方、「努力型」は「新聞」(22.1%)が1位として活字メディアから収集する割合は60%近く、「知人から」は(11.7%)とその傾向に違いがみられた。また「享楽型」では「職場」と回答した女性が(10.7%)みられた。

2 学習の「きっかけ」(表4-1)

卒業後の学習方法についてこの1年間学習を始めたきっかけについて27の項目を示し、その理由を3つ選択してもらった。その結果、次の項目に有意な差がみられた。それは①「資格を取得するため」、②「生きがいのため」、(各々 $P < .05$)の2項目である。回答者のL/Sからみると「資格取得」と回答したのは「努力型」(31.3%)、「自律型」(25.5%)に多く、生活に目標をもって卒業後も資格取得をみざす姿勢は自らを「努力型」、「自律型」と回答した女性の意欲的な学習態度と付号している。

次に「享楽型」(18.4%)、「他人(社会)型」(15.6%)、「伝統型」(14.3%)となっている。女性の生き方が多様化し、客観的实力としての資格の取得意識はますます高まることが推察される。

②「生きがい」については39人(9.3%)と決して多い人数ではないが、その中で「他人

「社会」型（18.8%）の回答者が多い。自らを「他人（社会）型」と自己評価した女性たちは卒業年度が早いⅠ期からⅢ期までがほとんどである。子育てを終えた年代の人たちが生きがいのために学習に取り組んでいることが推察される。続いて「努力型」、「伝統型」が同じ割合で続いている。

3 この1～2年間の学習状況（表4-2）

まず、職場での学習方法について10の項目で回答を求めたもののうち「他の企業での研修に参加」（ $P. < .01$ ）の項目に有意差がみられた。

この回答者は「他人（社会）型」、「努力型」、「伝統型」に多く「努力型」は自らの目標のため、「他人（社会）型」、「伝統型」は自らのためでなくとも、学習の機会を活用していることがうかがえる。

次に、地域で参加している活動についてであるが、回答者が暮らしている地域でどのような活動をしているのかについて①参加している場所②参加している内容について質問した。

(1) 参加している場所（表4-3）

地域でどのような活動に参加しているのか「場所」について12の項目を設けあてはまるものを選択してもらった。

有意差がみられた項目は①「学習していない」（26.4%）②「各種学校に通っている」（4.3%）（各々 $P. < .05$ ）の2項目である。

地域での学習に参加していない回答者は「享楽型」、「伝統型」、「自律型」に多く、3人に1人である。一方、「他人（社会型）」では何らかの方法で学習に参加していない人はわずか3人である。

②「各種学校に通っている」と回答した人は5%以下と僅かであるが、卒業後も更に目的をもって学習に取り組んでいることがうかがわれる。そのうち「努力型」が全体の半数をしめており、次に「他人（社会）型」、「享楽型」と続いている。

(2) 学習活動の内容（表4-4）

活動内容について具体的に12の項目を設け選んでもらった。L/Sからみると①「仕事の技術や資格に関連した内容の活動」（ $P. < .001$ ）、②「学習していない」（ $P. < .01$ ）、③「社会福祉や奉仕活動」（ $P. < .05$ ）、④「その他」（ $P. < .05$ ）の4つの項目に有意差がみられた。

①「仕事の技術や資格に関連した活動」に参加している割合が最も高いのは「努力型」（38.4%）である。「努力型」と評価する女性たちは卒業年度が下がるV、VI期に多くみられる。地域の中で仕事に関する技術や資格向上のため学習に積極的に参加していることがうかがわれる。次に「他人（社会）型」、「自律型」、「享楽型」は5人に1人の割合でそれぞれが学習に参加している。しかし「伝統型」は低い割合（8.3%）である。

②「学習に参加していない」と回答した女性たちは全体として3割近い。特に「自律型」は高い割合（41.2%）である。「享楽型」、「伝統型」は3人に1人の割合で学習に参加していない。

③「社会福祉や奉仕活動（ボランティア活動）」では「他人（社会）型」の女性の5人に1人の割合で地域の中でボランティア活動に参加がみられるものの、このL/Sの女性たちは卒業年度の早いⅠ～Ⅲ期の女性たちである。この活動は現状ではまだ十分に機能し

ていないことがうかがわれる。

4 学習できなかった理由（表5）

「短大卒業から現在まで」の期間において学習を行うことができなかった理由について24項目を示し、女性が学習を行う上での障害をたずねた（3つ選択）。その中でL/Sとの関係で有意な差がみられた項目は①「育児に追われて」②「結婚のため」③「学習意欲がわからない」（ $P. < .05$ ）である。「伝統型」の女性たちの3人に1人が「育児に追われている」と回答している。「伝統型」は自分のことより家族を大切にするというL/Sで3人に1人は子育てに専念している（いた）ということになる。

「享楽型」、「自律型」、「努力型」は同じような割合の傾向である。「他人（社会）型」では育児を理由にする女性は少ない。「育児の忙しさ」を理由にする女性たちは「女性は家庭に、子育てには女性が」の役割をしている人たちではないかと考えられる。次に、低い割合であるが、「努力型」、「自律型」の女性に「結婚のため」を理由としてあげている者がみられる。

5 社会教育事業内容への希望（表6）

今後の社会教育事業の中でもっと力を入れてほしい学習内容について21の項目をあげて解答を求めた（3つ選択）。L/Sとの関係で有意な差がみられた項目は①「女性問題や労働問題を考える内容」（ $P. < .001$ ）、②「趣味やレクリエーションに関する講座」（ $P. < .05$ ）、③「健康増進やスポーツに関する教室」（ $P. < .05$ ）の3項目である。

①「女性・労働問題」とL/Sとの関係では「自律型」の女性に割合が高く（34.9%）、次いで「努力型」の（20.2%）、「享楽型」（12.3%）の順、他の型は1割以下で、特に「他人（社会）型」は少ない（3.1%）。

女性たちは社会的役割に参与しつつある現在、「自律型」、「努力型」のL/Sとする女性たちに、女性の生き方、職業への意識の高さがうかがわれる。

②次に、「趣味、レクリエーション講座」との関係では「伝統型」の女性の3人に1人、「享楽型」、「自律型」の女性の4人に1人、「他人（社会）型」の女性の5人に1人の割合でこれらの講座の充実を希望している。趣味、レクリエーションといってもその内容は多様であるが、育児に追われて学習できなかったとする「伝統型」の女性たちに比較的希望が高い。総じて、女性が自らの生活を楽しむ機会を求めていることがうかがえる。

③「健康、スポーツの講座」の回答では「伝統型」（23.8%）、「享楽型」（20.9%）の割合が高くなっている。

「伝統型」は卒業年度の古い年代に多くみられることから健康志向へ、また「享楽型」は卒業年度の新しい年代に多くなる傾向のみみられることからスポーツの技術志向へと関心が示されているように推察される。

まとめ

1. ライフスタイルの5つのパターンのうち「享楽型」とする女性たちは、いずれの卒業年度でも一番多いが、卒業年度が下がるほどその割合は高くなっている。特にVI期の若い世代、Ⅲ期の中堅世代は5割前後となっている。学習情報の入手方法は「知人から」が1位である。次いで「雑誌」となっていて「新聞」、「職場」、「テレビ」が同じ割合で続いている。「職場」での情報収集は1割ではあるが他の型より多い。学習のきっかけは「資格取得のため」とする女性が2割近い。学習状況としては、「学習していない」女性

が3割いるが、今後の社会教育事業として「趣味・レクリエーション・健康・スポーツ講座」にもっとも力を入れてほしいと希望している人たちが5割近く学習への意欲がみられる。

2. 「伝統型」では、VI期の若い世代は1割にも満たないが、卒業年度が上がるに従って多い傾向となる。学習情報の入手は3割近い女性が「知人から」としている。次いで「新聞」、「雑誌」、「本」となっており、さらに「広報誌」を加えると、活字メディアからの情報を収集する割合は50%をこえている。学習のきっかけは「資格を取得するため」、「生きがいのため」がほぼ同じ割合である。

学習状況は、「学習していない」とする女性が「自律型」について多い。その理由は「育児のため」が高い割合をしめている。子どもを産み育てながらも女性が学習できる環境づくりが重要だと思われる。今後の学習として「趣味・レクリエーション・健康・スポーツ講座」の希望の割合が特に高い。

3. 「自律型」は卒業年度VI期、V期の女性に比較的多くみられる。学習情報の入手は「知人から」が3割で第1位、次いで「本」、「テレビ」が同じ割合となっている。

学習のきっかけは4人に1人が「資格取得のため」とその意識の高い傾向がみられる。「学習していない」と回答した女性は一番多いが、今後の学習では「女性労働問題」を希望するものが、3割をこえていて他の型よりもっとも多い。また「趣味・レクリエーション・健康・スポーツ講座」の希望も4人に1人と積極的な姿勢がみられる。

4. 「努力型」は若い世代になるほど多くなっている。学習情報の入手方法は「雑誌から」が第1位、次いで「本」、「新聞」からとなっており、さらに「タウン誌」、「広報誌」を加えると、活字メディアから情報を収集する割合は6割をこえている。次に「知人から」となっていて、他の4つの型と異った傾向がみられる。学習のきっかけは「資格取得のため」とする者が3割をこえていて、他のいずれの型よりもっとも割合が高い。また地域での学習活動内容も「技術の向上、資格に関するもの」に4割近い女性が参加していて学習の目標を持ち意欲的に取り組んでいる。一方、「育児」、「結婚」のため学習できなかったとする女性も4人に1人いる。今後の学習として「女性・労働問題」への意識も高い。

5. 「他人型」は5つのパターンのなかでもっとも割合が少ない。若い世代VI期ではこの型に属する者はみられず、卒業年度が古くなるにつれて多くなっている。情報収集は「知人から」が3割で第1位、次いで「テレビ」となっている。「テレビ」からの入手はこの型がもっとも多い。学習のきっかけは「生きがい」、「資格取得のため」の順で他の型と違った傾向がみられる。地域での活動で「ボランティア活動」をしている者はこの型が一番多く、また学習の参加率も学習意欲も高い。

表 1

卒業年度	人 数	%	累積頻度	累積%
N A	6	1.4	6	1.4
1965- '70年	60	13.6	66	15.0
1971- '75年	43	9.8	109	24.7
1976- '80年	73	16.6	182	41.3
1981- '85年	124	28.1	306	69.3
1986- '90年	105	23.8	411	93.2
1991- '92年	30	6.8	441	100.0

表 2

単位 (%)

卒業年度	ライフスタイルの型	専業型	伝統型	自律型	努力型	他人(社会)型
全 体		38.9	19.7	10.0	23.9	7.5
I期 (65-70年)		25.4	25.4	8.5	22.0	18.7
II期 (71-75年)		29.3	26.8	7.3	22.0	14.6
III期 (76-80年)		48.6	20.8	5.6	13.9	11.1
IV期 (81-85年)		39.1	20.0	14.2	25.0	0.7
V期 (86-90年)		38.0	16.0	11.0	30.0	5.0
VI期 (91-92年)		53.3	6.7	10.0	30.0	0

表 3 学習情報の入手方法・1つ選択

卒業年度 ライフスタイルの型	合計	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	本	タウン誌	広報誌	回覧板	知 人	職 場	家 族	教 師	パソコン	その他
1. 専 業 型	N	140	15	3	15	21	14	4	8	3	32	15	4	1	4
	%	100	10.71	2.14	10.71	15.00	10.00	2.86	5.71	2.14	22.86	10.7	2.86	0.71	2.86
2. 伝 統 型	N	72	4	0	14	10	10	0	7	3	20	2	1	0	1
	%	100	5.56	0.00	19.44	13.89	13.89	0.00	9.72	4.17	27.78	2.78	1.39	0.00	1.39
3. 自 律 型	N	33	4	0	2	2	4	2	0	3	10	1	1	2	2
	%	100	12.12	0.00	6.06	6.06	12.12	6.06	0.00	9.09	30.30	3.03	3.03	6.06	6.06
4. 努 力 型	N	77	4	1	13	17	15	2	3	1	9	4	1	1	6
	%	100	5.19	1.30	16.88	22.08	19.48	2.60	3.90	1.30	11.69	5.19	1.30	1.30	7.79
5. 他人(社会)型	N	26	6	0	4	2	1	0	0	1	8	2	0	0	2
	%	100	23.08	0.00	15.38	7.69	3.85	0.00	0.00	3.85	30.77	7.69	0.00	0.00	7.69

 $X^2=74.76$ $df=52$ $P.<.05$

表 4 「学習の現状」とライフスタイルとの関係

質問項目	ライフスタイルの型	合計 N	専業型	伝統型	自律型	努力型	他人(社会)型	
1 生きがいのため *		39	6	11	3	13	6	
		9.26	3.68	13.10	6.98	13.13	18.75	
		89	30	12	11	31	5	
2 資格を取得のため *		21.14	18.40	14.29	25.58	31.31	15.63	
	3 他企業での研修に参加 **		25	7	6	1	8	3
			5.94	4.29	7.14	2.33	8.08	9.34
4 各種学校に通っている *			18	5	2	0	9	2
		4.28	3.07	2.38	0.00	9.09	6.25	
	5 学習していない *		111	49	28	13	18	3
		26.37	30.06	33.33	30.23	18.18	9.38	
6 社会福祉や奉仕活動(ボランティア活動) *			25	7	8	1	3	6
		5.94	4.29	9.52	2.33	3.03	18.75	
	7 仕事の技術や資格に関連した内容の活動 ***		84	26	7	7	38	6
		19.95	15.95	8.33	16.28	38.38	18.75	
8 その他 *			33	6	9	3	9	6
		7.84	3.68	10.71	6.98	9.09	18.75	
	9 学習していない **		117	52	27	18	18	2
		27.79	31.90	32.14	41.86	18.18	6.25	

 $(X^2$ 検定 *: $P.<.05$, **: $P.<.01$, ***: $P.<.001$)

表 5 「学習できなかった理由」とライフスタイルの関係

質問項目	ライフスタイルの型	合計 N	専業型	伝統型	自律型	努力型	他人(社会)型
育児に追われている *		84	28	28	8	16	4
		19.95	17.18	33.33	18.60	16.16	12.50
学習意欲がわからない *		21	13	1	4	2	1
		4.98	7.98	1.19	9.30	2.02	3.13
結婚のため *		24	6	1	4	11	2
		5.70	3.68	1.19	9.30	11.11	6.25

 $(X^2$ 検定 *: $P.<.05$, **: $P.<.01$, ***: $P.<.001$)

表 6 「社会教育事業の中でもっと力を入れてほしい内容」とライフスタイルの関係

質問項目	ライフスタイルの型	合計 N	専業型	伝統型	自律型	努力型	他人(社会)型
女性問題や労働問題を考える内容 ***		62	20	6	15	20	1
		14.73	12.27	7.14	34.88	20.20	3.13
趣味、レクリエーションに関する講座 *		96	40	27	11	12	6
		22.80	24.54	32.14	25.58	12.12	18.75
健康増進やスポーツに関する教室 *		72	34	20	6	8	4
		17.10	20.86	23.81	13.95	8.08	12.50

 $(X^2$ 検定 *: $P.<.05$, **: $P.<.01$, ***: $P.<.001$)